写真班

梅崎春生

構造理解 次の空欄にあてはまる語句を本文からそれぞれ抜き出しなさい。

第一段（二二一・1〜二二三・3）

自宅でモリソバを平らげていた彼は、ブザーの音を聞いて慌てて立ち上がった。このブザーはずっと前の日曜日に、見知らぬ電気屋が半ば強制的に取り付けていったものである。彼はブザーと、それを取り付けた電気屋、そして〔①　　〕に腹を立てながら、台所を通過した。玄関の扉を開けると、見知らぬ男が二人立っていた。一人は四十前後の顎髭の男で、もう一人はそれより少し若い、肩から大きな〔②　　〕をぶら下げたイガクリ坊主の男だった。男たちは家の写真を撮りにきたという。彼はうろたえるが、顎鬚は名刺を彼の手に握らせ、イガクリを目で促した。

第二段（二二三・4〜二二五・8）

名刺には「金融公庫住宅資料調査社写真班」とある。彼が押しとどめる間もなく、男たちは家に上がってきた。彼が家の撮影を止めようとしたところ、顎鬚は言う。家は、撮られても減りはしない。私たちは写真を撮ることで給金をもらっているから、私たちには家を撮影する責任がある。だから家は撮影される義務がある。そして、この家が公庫から〔③　　〕を受けていることも知っている。家に義務があれば、家の持ち主にも義務がある。彼が名刺について、住宅金融公庫の〔④　　〕なのか問うと、顎鬚はそうではないときっぱりと答えた。

第三段（二二五・9〜二二八・8）

撮影の準備をする男たちを前に、彼は〔⑤　　〕気持ちになった。彼は日曜日に来た電気屋のことを思い出していた。そいつは玄関に出て行くなりこう言った。「あんたは何度僕に、ごめんください、を言わせるつもりですか?」と。そして、この家にはブザーが必要だとまくしたて、さっさと取り付けてしまった。そのときの自分の引き下がり方が、今のこの写真屋の場合とそっくりだと思ったとき、彼は身をよじりたくなるようないまいましさを感じた。

第四段（二二八・9〜二三〇・16）

彼は、自分が押し戻されてしまう理由を考えた。なぜなら、彼自身に家が自分のものであるという〔⑥　　〕がないからである。そこには、家を建てる費用のほとんどが借金だったという理由があった。彼が出した費用が少なかったことが、家が彼の〔⑦　　〕ではなく、むしろ自分が家の〔⑧　　〕であるような感覚を生んでいるのだった。

彼は箸をソバにつけた。ひどくまずかったが、食べ残すわけにはいかないような気持ちがある。男たちにどかされた彼は次の間に移り、その奥の狭い庭をぼんやりと見回す。何か〔⑨　　〕なことが行われているが、その正体がつかめない。写真班はまた、彼のいる部屋に侵入してきた。庭について文句を言う二人に、彼は自分自身が光を発さない〔⑩　　〕になった感じがした。それを破るために彼は何か叫ぼうとしたが、口いっぱいのソバのために、ほとんど声にならなかった。

語句理解　次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 傍線部のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで書きなさい。

(1) 響きがジュウマンした台所　［　　］

(2) 彼は必死にコウベンした　［　　］

(3) ケイベツしたような声　［　　］

(4) 何かのヒョウシにふっと判ってしまう　［　　］

(5) 台所を擦過し、玄関に飛び出した　［　　］

2 次の空欄に身体の一部を示す漢字を入れて、本文中にある慣用表現を完成させなさい。

(1) 〔　　〕を立てる　［　　］

(2) 〔　　〕をそびやかす　［　　］

(3) 〔　　〕をかしげる　［　　］

(4) 〔　　〕を吊り上げる　［　　］

3 次の語句の意味を答えなさい。

(1) 狼狽　［　　］

(2) 目障り　［　　］

内容理解　次の各問いにそれぞれ答えなさい。

◆第一段（二一一・1〜二一三・3）

1 「彼」が「心臓をどきんとさせ」（二一一・2）たのはなぜか。次の中から適当なものを一つ選んで記号で答えなさい。　［　　］

ア　来客者を待たせてはいけないと焦ってしまったから。

イ　耳慣れていないブザーの音に心をかき乱されたから。

ウ　モリソバを食べているところで気が抜けていたから。

エ　電気屋がブザーを取り付けたことを思い出したから。

2 「腹立ちの対象」（二一一・10）に「電気屋」が含まれるのはなぜか。次の中から適当なものを一つ選んで記号で答えなさい。　［　　］

ア　「彼」は電気屋がつけたブザーが気にいらなかったから。

イ　電池代しかおまけしないようなけちな電気屋だったから。

ウ　突然来てブザーを無遠慮かつ強引に売りつけてきたから。

エ　「彼」も電気屋もお互いのことを嫌悪しあっているから。

3 「いや、お心使いは無用です」（二一三・2）とは、どういうことを言っているのか。次の中から適当なものを一つ選んで記号で答えなさい。　［　　］

ア　「彼」が「写真班」の仕事について心配することは何もないということ。

イ　「写真班」が「彼」の動揺や狼狽を気にかけるつもりはないということ。

ウ　「彼」が「写真班」に対するもてなしを用意する必要はないということ。

エ　「写真班」は「彼」が渡そうとしている謝礼を受け取れないということ。

◇第二段（二二三・4〜二二五・8）

4 次の文章は、第二段における「顎鬚」たちが「彼」の家を撮影する論理を説明したものである。次の空欄にあてはまる語句を、本文からそれぞれ抜き出して説明文を完成させなさい。

・家は、撮られても減りはしない。
←
撮っても問題はない。

・私たちは命じられて来ているので、家を撮影する［A］がある。
←
家には撮影される［B］がある。
←
家の［C］にも［D］を許可する義務がある。

・この家は［E］から［F］を受けて建っている。
←
まるまる［G］のものではない。

◇第三段（二二五・9〜二二八・8）

5 「彼」は電気屋の「用件」が何だったと考えているか。それを示す部分を本文から**十字程度**で抜き出しなさい。

［　　］

6 次の文章は、第三段における「電気屋」および「彼」の論理を説明したものである。次の空欄にあてはまる語句を、本文からそれぞれ抜き出して説明文を完成させなさい。

電気屋

・［A］の構造上、［B］が何度もごめんくださいを連呼することになり、［C］させられて
←
［D］だ。

ベルかブザーを付けるのは、［E］の持ち主であるあなたの義務だ。

彼

・「ごめんください」の声を聞けば［F］のおおよその［G］に見当がつく。だが、ブザーやベルの音だと分からないから嫌いだ。

◇第四段　（二二八・9〜二三〇・16）

7「その不安定なもの」（二二八・12〜13）とはどういうことか。本文中の語句を使って**三十字以内**で説明しなさい。

30

8「そのこと」（二二八・16）とは何か。その内容を示す一文を本文から抜き出して、初めの**五字**を答えなさい。

9「が、すぐに肩を元の高さに戻した」（二二九・16）のはなぜか。次の中から適当なものを**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　写真班の行動を今すぐやめさせたいが、彼らを納得させることのできる道理がなかなか思いつかなかったから。

イ　写真班のしていることが倫理的に許されないと感覚的には分かっているが、その要所をとらえきれていないから。

ウ　写真班の行動が違法なことだと分かっているが、彼らを止めることが今後の生活に悪影響を及ぼさないか不安だったから。

エ　写真班の言動に強い憤りを感じているが、その発散は食後の適当なタイミングでしようと思い直したから。

10「彼」が「自分自身が光を発さない光源体みたいな感じ」（二三〇・14）になったのはなぜか。理由を説明しなさい。

主題理解　本文について述べた次の文の中から、適当なものを**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア　「電気屋」と「写真班」に共通していることは、「彼」の家の建設費用のほとんどが借金であることを、自分たちの目的を達成するための方便として用いている点である。

イ　「電気屋」がとりつけたブザーの音は、取りつけた経緯を「彼」に思い出させて、「彼」がこの家の主であるという自覚を不安定なものにするため、「彼」はこの音を嫌っている。

ウ　「彼」が家の付属物であるという意識は、自らの財力だけで家を建てなかったことだけでなく、その借金の返済のために現在も貧しい生活を送っていることにも起因している。

エ　家への侵入者に押し戻されてしまう「彼」は、なすすべのない現状に不満を抱えている一方で、彼らを拒めないような自分自身の在り方と、今の生活を甘んじて受け入れてしまっている。

オ　家に関する決定権は、法律上は持ち主である「彼」が持っているものであり、それを主張し行使できないということから、「彼」が法律や制度に関する知識を全く持っていないことを示している。